

原理と基礎（復習）

1. 霊操の目的

- #1 その目的は、まず乱れたあらゆる愛着を棄てることであり、その後、靈魂の助かりのために自分の生活を整えることについて神のみ旨を探し、確かめることである。
- #21 自分自身に打ち克ち、いかなる乱れた愛着にも左右されることなく生活を整えるための霊操

2. 霊操の流れ

- #4 霊操には、4週間で当てられる。それは霊操が4部に分かれているので、それに相当する時間が4週間になるからである。霊操の第1部は罪の考察と感想を含み、第2部は枝の主日までの主キリストの生涯の秘義、第3部はわが主キリストの受難、第4部は復活と昇天、また祈りの3つの方法を含む。・・・霊操はおよそ30日間で終わるべきである。

3. 原理と基礎

- #23 人間が造られたのは、主なる神を賛美し、敬い、仕えるためであり、こうする事によって、自分の靈魂を救うためである。又、地上の他のものが造られたのは、人間のためであり、人間が造られた目的を達成する上で、人間に助けとなるためである。従って人間は、そのものが自分の目的に**助け**となる限り、それを使用すべきであり、**妨げ**となる限り、それから離れるべきである。であるから、私達の自由意志に任せられ、禁じられていないものであれば、全ての被造物に対して**偏らない心**を育てなければならない。従って私達の方からは、病気よりも健康を、貧しさよりも富を、不名誉よりも名誉を、短命よりも長寿等を欲する事なく、ただ私達が造られた目的へよりよく導いてくれるものだけを望み、選ぶべきである。

・相田みつを「しあわせはいつもじぶんのところがきめる」

4. 原理と基礎を黙想する

- ・ルカ 12,13-21 愚かな金持ちのたとえ
- ・ルカ 12,22-34 思いなやむな
- ・ルカ 12,35-48 目を覚ましている僕